

美唄市グリーン・ルネサンスシンポジウム を開催しました。

- 1 と き 平成23年1月30日(日) 12:30～
- 2 ところ 美唄市民会館2階大会議室
- 3 テーマ

美唄市は、農業や自然、文化財産を貴重な教育資源としてとらえ、食農体験を通して子どもたちの豊かな心、生きる力を育てようとする「グリーン・ルネサンス推進事業」を進めています。

このシンポジウムは、取り組み内容を広く紹介するとともに、食べることの大切さや子どもたちの食農体験学習について、参加者のみなさんと一緒に考えようということをテーマに開催しました。



- 4 主催 美唄市、美唄市教育委員会、農林水産省北海道農政事務所
- 5 参加者 130名
- 6 プログラム
(1) グリーン・ルネサンスマスコットキャラクター(だいち、めぐみ、げんき、ばびい)名付け親、美唄市長賞表彰式

(2) 講演

講師 シニア野菜ソムリエ 萬谷 利久子さん

(財)日本野菜ソムリエ協会認定

演題 食がもつ大きな力「いつもおいしく、楽しく！」

(3) パネル・ディスカッション

「語ろう！子どもたちの食農体験」

コーディネーター 萬谷 利久子 氏

パネリスト

農業者 齊藤 実 さん(西美唄小学校PTA会長)

〃 今野 守 さん(茶志内小学校PTA会長)

教職員 安斉 晋吾 教諭(東栄小学校)

〃 鍵谷 勲 教諭(茶志内小学校)

〃 佐藤 明子 栄養教諭(中央小学校・美唄市学校給食センター)

ウェルカム・ランチ

まずはウェルカムランチタイムです。

昨年、美唄市立茶志内小学校の子どもたちが一生懸命に育ててきた「ななつぼし」を使ったおにぎりと豚汁を食べていただきました。



なんとと言ってもこの時期、暖かい豚汁が何よりのご馳走。子どもたちの心のこもったお米を使ったおにぎりと一緒にいただきました。お友達同士の話もはずんでいました。



開 会 式

ごあいさつ

「地域に根ざし、暮らしに学ぶ」の考えのもと、美唄の農業や宮島沼などの自然、アルテピアッツァ美唄などの文化財産を教材として、子どもたちの生きる力や豊かな心を育む「グリーン・ルネサンス推進事業」に取り組んでいます。

本日のシンポジウムは本年度の取り組みを振り返りながら「子どもたちの食農体験や食の大切さを考える」をテーマに開催しました。

市内外からもたくさんの方の参加に感謝を申し上げます。

また、講師の萬谷利久子様、パネラーの皆様、キャラクターの名付け親の皆様、遠くは大阪からもご参加をいただき誠にありがとうございます。

そして共催いただいた北海道農政事務所、農業体験で多くのご協力をいただいている空知総合振興局、空知農業改良普及センターをはじめ教職員、地域の方々、さらに、この取り組みに先駆的に取り組んでおられる福島県喜多方市教育委員会の渡辺課長補佐、帝京大学野田知子教授にご指導いただいていることに厚く感謝を申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



キャラクター名付け親美唄市長賞表彰式

グリーン・ルネサンスマスコットキャラクター

「だいち」「めぐみ」「げんき」「ばびい」の名付け親さん
向かって右から「だいち」の杉島さん、「めぐみ」の秋保さん、「げんき」の
佐藤さん、「ばびい」の久恒さん、そしてキャラクターの作者の新さん



だいちの名付け親さん（大阪府枚方市 杉島さん）



美唄は雪が多いですね。大地（だいち）という名前は大地の恵みの中で食物が育っていくことを願ってつけました。グリーン・ルネサンスの取り組みが行政と市民が一緒になってますます進んでいくよう、大阪の地から応援しています。ありがとうございました。



めぐみの名付け親さん（美唄市 秋保さん）



かわいいキャラクターを見て思いついた名前はひとつでした。このキャラクターたちが成長して二十歳になる姿をイメージしています。これからも見守っていかうと思っています。



げんきの名付け親さん（札幌市 佐藤さん）



明るく楽しそうだったのでこの名前を考えました。私は食べるのが好きなので、これからもたくさん野菜を作ってそれをたくさん食べていきたいと思います。

がんばってください。



子犬のばびいの名付け親さん（美唄市 久恒さん）



美唄らしい名前がいいなと考えてびばいという字を見ていたらひらめきました。私も「ばびい」と一緒にグリーン・ルネサンスのことをもっと詳しく学びたいと思います。

どうもありがとうございました。

マスコット・キャラクターの作者、
美唄市教育委員会学務課の新 智美さん。

「本当に素敵な名前を付けてくれてありがとうございました」とキャラクターたちに代わって名付け親さんにお礼の言葉を伝えました。

わかりやすいイラストであることはもちろんですが、キャラクターたちがどんな会話をしているのか想像してもらえそうな雰囲気や大事な描くようにしています。これからこのキャラクターたちは、グリーン・ルネサンスのホームページや農業体験学習の副読本の中で活躍していきます(いくはず・・・)ので、みなさんにかわいがってもらえるといいなあ、と思っています。

どうぞ、よろしくお願いします。



食がもつ大きな力「いつもおいしく、楽しく！」

シニア野菜ソムリエ 萬谷 利久子さん

講演では、生きる上で、食べることがいかに大切であるかについて、豊富な知識と経験談を明るく、楽しくお話ししていただきました。

会場の皆さんも参加できるようクイズもあって、会場全体が一体感に包まれました。

萬谷さんのお話しの主な内容をここで紹介します。



シニア野菜ソムリエ
萬谷利久子 さん

その1 Jリーガー、アスリートは食事に気を使っている

Jリーガーやイチローなど有名なアスリートは、自分の食べることを決してないがしろにしない。

そして、見た感じがきれい。食べるときの姿勢や食べ方がきれいなんです。テレビを見ながら食べるのはNG。食べることに集中できません。

子どもをアスリートにしたいと思っている方がいらっしゃったら、参考にしてください。

その2 鉄分を摂るのは、夏バテ防止になる

ハスカップは、鉄分を多く含んでいますから、疲れがとれやすいのです。明日の疲れが違ってきますよ。美唄はハスカップの作付が全道一ですからもっといただきましょう。今日、食べるものが明日の元気に直結しているんです。クエン酸にレモンを絞って、はちみつを入れて飲むのも、疲れをとるにはいいですよ。

その3 サウナの後のビールは最悪

サウナから出た後は、皆さん、ビール飲みたい方多いですね。
(はい)
実は、胃から吸収されすぎてしまうので、ビールの前に水を飲むのがいいんです。メタボ対策にもなりますよ。

その4 野菜をたくさん食べる人は風邪をひいても治りやすい

野菜の宅配をしている「らでいっしゅぼーや」のアンケート調査によると、野菜をよく食べる人と食べない人を比べると、野菜を多く食べる人の方が風邪をひいても治りやすいと答える人が多いのだそうです。これは医学的な根拠があるわけではありません。あくまでもアンケートの結果です。

その5 風邪をひいたときに効果のある食べ物って

皆さんは、何がいいと思いますか？(しょうが、ニンニク・・・)
そうですね。しょうがやニンニクは体を温める効果があり、風邪の予防にいいですね。長ねぎを首に巻くといいですよ。首に巻いたことがある人はいますか？(ぱらっと手が上がりました。)

その6 冬場にビタミンCを摂るには

ビタミンCは、調理の過程で水に流れてしまいやすいですけど、今の時期ならじゃがいもとかぼちゃがいいんです。じゃがいもやかぼちゃはでんぷん質が多いので、そのでんぷん質がビタミンCを流れないようにする働きがあるんです。たくさんいただきましょう。

その7 作物や生産現場の情報発信することの意味って

去年の夏場は記録的な高温になったため、じゃがいもの中心が空洞になってしまうものが多くなりました。
こういうものは、スーパーなどではすぐにクレームが入ります。私はラジオ番組の中で、「今年は高温の影響で、じゃがいもの中心に空洞ができてしまう。そういうものなんです。」という話をしましたら、生産者の方から「よく、言ってくれた！」と喜んでもらいました。
情報発信することによって、クレームが減ることにつながることも多

いです。やはり作物が育つには、そうしたこともあるんだということがわかる子ども、大人になってほしいと思います。

その8 農産物、お皿の向こうにあるものが見える人になって！

皆さん、チョコレートは好きな人、多いですねよ。このチョコレートの原料のカカオは、どこの国から一番多く輸入されているかわかりますか。安斉先生どうですか？（パネルディスカッションのパネラー）

「ガーナでは？」「ガーナチョコレートで・・・」ガーナも多いですが、正解は、コートジボワールという国なんです。（西アフリカに位置、ちなみに東隣りにガーナ）

この国では、カカオの実を子どもたちの手で収穫されているんですよ。

農薬をまくときにマスクもしないで、いつも美味しくいただくチョコレートにもそこにいる人、背景がある。それを考えられる、想像を膨らませることができる人になってほしいと思います。

その9 おいしい野菜ってなんですか？

みなさん、おいしい野菜ってなんですか。佐藤さんはどうですか？（佐藤さんは、グリーン・ルネサンスマスクットキャラクター「げんき」の名付け親さんです）「トマト・・・」そうですねトマトおいしいですよ。

おいしい野菜は、ゆっくり着実に育った野菜です。

化学肥料は急に大きくなったりしますが、有機肥料は作物が必要な分だけ吸収するので、着実に育ちます。化学肥料を多く吸って育ったものは形がいびつだったり、色が濃かったり、その作物を見ると、どうやって育ってきたのかわかります。

その10 よい「ほうれん草」は、色の濃いもの、薄いもの？

正解は、薄いものです。ほうれん草はチッソ（硝酸態窒素）を多く吸収すると色が濃くなります。スーパーのニーズはこれまで色の濃いものでしたが、最近は淡い色のものが求められてきています。

食べること、それは、私たちの明日の健康にとっても大切なこと。食べることは生きること。萬谷さんのお話しは私たちの日々の生活、とりわけ、食生活をもう一度考えさせられる貴重なお話しでした。

語ろう！子どもたちの食農体験！

コーディネーター 萬谷 利久子 氏

パネリスト

農業者 齊藤 実 さん（西美唄小学校PTA会長）

〃 今野 守 さん（茶志内小学校PTA会長）

教職員 安斉 晋吾 教諭（東栄小学校）

〃 鍵谷 勲 教諭（茶志内小学校）

〃 佐藤 明子 栄養教諭（中央小学校・美唄市学校給食センター）



22年の農業体験はどんなことをしましたか？
やってみてどうでしたか？

安斉さん

ふゆみずたんぼに行ったとき、子どもはあることに夢中になっていた。

お米を剥いて見せていました。「先生、これ見て！」って…
米粒は、ずっと噛んでいると甘くなるんだよ！と教えてあげた。といったときから子どもは変わりました。
一生懸命に噛んでいました。



鍵谷さん

私は、農業のことはほとんど知りませんでした。田植えの時は、農家の方に教えてもらいながら、植えました。

高学年は、まっすぐ、植えることができましたが、1・2年生の植えたところはふにゃふにゃでした。(笑)

子どもがけがをしないかひやひやしていたが、キャーキャー歓声を上げて楽しくやっていた。

収穫して、食べるころまで楽しもうということで、カレーや餅つきをして食べました。おいしい、おいしいと言っていました。



今野さん

親から引き継いで、農業を22年間やっています。

まさか、自分が農業のことを子どもたちに教えるとは思っていなかった。

子どもたちに、楽しさや食の大切さをどのように教えたらわかってもらえるのか考えるようになった。

いまは、子どもたちが笑顔で終わったのでほっとしている。昔ながらの足ふみ脱穀機や千歯こき、とうみは、自分も使ったことがないので勉強になった。



斉藤さん



西美唄小は、ほぼ100パーセントが農家の子ども。
普段の農作業はすべて機械でやるので田植えも、稲刈りも「お父さん、なんで手でやるの？」って聞く。ある意味、町の子どもよりもさめている。
落ち穂拾いは真剣にやっていた。
もちは毎年作っているので、例年、吐いてしまうまで食べてしまう子どももいる。

萬谷さん

すごい、体育会系の子どもですね！

斉藤さん

もちと一緒に食べようと大豆を育ててきなこを作っています。
朝、通学前に作物に水やりしてくる子どももいます。

萬谷さん

収穫だけではなく、普段から世話をしていると、感動も大きいのでしょ
ね。

佐藤さん



平成16年7月、児童・生徒に対する食に関する指導の充実ということで、「栄養教諭」が置かれた。
美唄市は、平成21年4月から中央小1名と東小に1名の2名配置されています。
子どもたちは、「献立を作る人」、「給食の先生」と言っています。
美唄は、米は100パーセント美唄産を使っていますが、そのことをわかっていない子どももいる。

美唄は、周辺市町に先駆けて、地元の食材を使う「地産地消」を実践して
いて、無農薬、低農薬栽培をしている農家グループから仕入れています。

時期によって使えないときはありますけど、20年度では美唄産36パー
セント、道内産41パーセント、年間にして77パーセントが道内産となっ
ています。美唄産の米粉パンや春よ恋（小麦）のパンも出していますよ。

地元のものを食べられることはありがたいことなんだっていうことを気づか
せてあげたい。

食器は強化磁器を使用し、フライなども冷凍食品は使わず手作りしています。

子ども自身が食べているものがどこで作られているかっていうことがわかったら食べ物に対する考え方も変わり、マナーにもつながると思います。

農業体験は、そういう意味でもそのきっかけになると思います。

萬谷さん

友達のお父さんが作っていたら、違うでしょうね？

佐藤さん

センター方式をとっているので、むずかしいところはあるとは思いますがけれども、そう思いますね。



これからの食農体験、こんな風にやったらということは。
体験をやってきて、こんな課題が見つかったなんてことは？

安齊さん

こどもがポケットいっぱい米粒を詰め込んで僕に質問をしてきました。

「先生、米って　　なの？」

(ここは会場の皆様へのクイズ・・・さすがに先生)

残念ながら正解は出ず(・・・)

正解は、「先生、米って生きてるの？」って聞いてきたんです。「あのね、今までみんなが体験してきたのは、イネっていう植物のタネを・・・と言ったところで・・・子どもは

「イネって植物なの？」って言いました。

子どもたちには、成長と発見があったと思います。

給食の食べ残しは、残念ながら目に見えて減っていませんでしたが、もっと、踏み込まないと子どもはわからないのかな。農家の人の苦勞をもっと知ろうとしなければいけないと思いました。

萬谷さん

自分が食べているものの原型というか、原料とがリンクしていないのでしょうか？ある水族館に行った子どもが、「お母さんどこにサシミがいるの？」って聞いた子どもがいるそうですよ。

鍵谷さん

落ち穂拾いのときに、子どもは農家の人のお話を聞いて変わりました。

それは「この一粒のお米をまいたら、たくさんのお米がとれるんだよ。」って聞いて、それは拾わないとダメだと思ったのでしょうかね。

体験内容は、22年は初めてだったこともあり、大人が相談して決めていましたが、子どもたちにやりたいことは何かを投げかけてみたい。

萬谷さん

体験で習得したことをプレゼンテーションするとか、あぜ道を囲んで、中心で発表するとか、おもしろいと思いますよ。〈オモシロイの声〉

今野さん

6年間で子どもたちにいかにわかってもらうか、成長してもらえるか。自分も農業体験に携わっているけれど、もっと勉強していきたい。

先生方には、いつも時間を裂いてやってもらっている。

茶志内小は、中村と茶志内という2つの地域がありますが、昔のことを知っているおじいさんもいるので、そういう方の力も借りてやっていきたい。

斉藤さん

食農体験には、3つのきょう（教・協・共）育者が必要だと思います。

一つ目は学校における教育者、二つ目は僕ら受け入れ側の協育者（協力する者）、三つ目は、熱血先生のドラマのパクリですが、保護者、我々、先生が共に育っていくこと。そうなれば、この取り組みは、美唄市全体に広がってくると思います。

体験では、先生が一番楽しんでますよ。先生が押しつけてコンバインに乗ったり（笑）あと、町場に暮らしているおじいちゃんやおばあちゃんは、昔、農家に出面さんに来ていた人も多い。そういう人は田植えなんかも上手。教えてもらったらいいと思います。

佐藤さん

給食を残す子どもが多い。私たちのときは、ジャムはビニールの袋をすごいで出すものでした。今の子どもは、ちょっとでも気に入らないと食べないです。

私たち栄養教諭は、子どもたちに食事のことを教えていく役割がありますし、これから努力をしていきたいと思いますが、例えば、給食のときに担任の先生が、食べることなどについてちょっとでも話していただくと、違ってくると思います。先生は、給食の時間もほかにやるのがたくさんあって忙しいと思いますが。

あるとき、担任の先生が給食のときに「今日から新米になったよ」って話しをしてくれたことがあります。そのときの子どもたちは、食べ方や残し方が違っていました。

萬谷さん

そうですね。先生には、食べることにしても、今以上に子どもたちに寄り添ってほしいですね。

終わりに

パネルディスカッションでは、食農体験を支援していただいている農家の方、教職員の方から、子どもたちのやりたい体験をくみ上げること、お年寄りの知恵をもっと借りることなど、体験学習の進め方の面でも、現場の生の意見やアイデアがたくさん出されました。

また、学校給食における子どもたちの食に対する教育の大切さなどが出されました。

今日のシンポジウムで得られた様々な提案は、今後、グリーン・ルネサンス推進事業を進めるに当たり、食農教育に生かしていきたいと考えています。

今回のシンポジウムの開催にあたり、ご協力をいただいた全ての皆様に感謝を申し上げます。今後ともご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。（美唄市教育委員会）